

**SENTIMENTS**

**SIGNES**

**PASSIONS**

**À  
PROPOS  
D'!  
LIVRE D'IMAGE**

《感情、表徴、情念 ゴダールの『イメージの本』について》

**Jean-Luc GODARD**

2025.7.4 FRI - 8.31 SUN 12:00 - 20:00 ※会期中の営業情報についてはHPをご確認ください

会場: 王城ビル(東京都新宿区歌舞伎町1-13-2) 入場料: 2,200円

主催: 《感情、表徴、情念 ゴダールの『イメージの本』について》展 実行委員会 企画: カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社, パラダイス商事株式会社

後援: 在日スイス大使館, 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ, 新宿区

<https://godardtokyo.com>

# 映画の芸術性を拡大させた ゴダールの世界を体感するインスタレーション

本展覧会は、ジャン＝リュック・ゴダール監督最後の長編作品であり、カンヌ映画祭でパルム・ドールを超越する賞として、映画祭史上初の「スペシャル・パルムドール」を受賞した『イメージの本』(2018年発表)を映像インスタレーションとして再構成。ゴダールの眼で世界を見る内容となっています。

映画『イメージの本』は、1世紀以上にわたる歴史、戦争、宗教、芸術などの変遷を、さまざまな映画の引用でコラージュし振り返る、5章立ての作品です。本展では映画の各章をさらに断片化し、引用される映像の順序も常に変化させます。それらを会場内に多数設置されたスクリーンに投影・展示するという手法により、映画上映の時系列的

な束縛を打ち破り、視覚的、空間的にゴダールの世界を体感いただけます。会場では、往年の映画ファンはもちろん、ゴダールを知らない多くの若い世代の方たちも、その映像や音の断片を通じて、その場に立ちながらゴダールの思考に入り、彼の眼で世界を見つめる観察者となっています。

これまでにドイツ、スイス等で会場の特徴をいかした展示が行われてきた同展を、このたび日本で初めて、東京で開催することになりました。会場は、新宿歌舞伎町の歴史を60年前から見守ってきた「王城ビル」。ゴダールの芸術性を極限にまで拡大させた本展に、ぜひご期待ください。

## 後期ゴダールの右腕で、映画『イメージの本』のプロデューサーのひとりであるアラニーヨ氏

2010年の映画『ゴダール・ソシアリズム』から撮影／音響／編集を手掛け、晩年のゴダールの右腕であったスイスの映画作家・ファブリス・アラニーヨが本展のアーティスト／キュレーターを務めます。映画『イメージの本』のプロデューサーでもある氏は、本展のコンセプトを「『イメージの本』の編集室を拡大し、映画のなかの世界のように拡張させたもの。観客は自分で映画のプロセスを選択し、観客自身が時間のカーソルとなって、まるで森のような映画空間を散策できる。」と語っています。



ファブリス・アラニーヨ  
Fabrice Aragny

1970年、スイス・ヌーシャテル生まれ。ローザンヌ州立美術学校卒業。映画作家、プロデューサー。『ゴダール・ソシアリズム』(2010年)、『さらば、愛の言葉よ』(2014年)、『イメージの本』(2018年)など、多くの映画でジャン＝リュック・ゴダールの撮影監督として参加。またゴダールと共同で、イメージ、サウンド、編集、ミキシングの各オペレーターを指揮するなど、晩年のゴダールの右腕として活躍。

「物凄い精度の適当さーこの世界が失われる前に」

2023年の11月、僕はリスボン映画祭のクロージングイベントでコンサートを行い、その翌朝、ファブリス・アラニーヨに彼がキュレーションした「イメージの本」についてのインスタレーションを案内してもらった。それは後期ゴダールの作品と同様に、部分と全体という二項対立を無化し、物凄い精度の適当さというこの世界から失われつつある幻のように美しく凶暴な空間だった。

僕はこの作品はもう観れないと思っていた。だから断言しよう、この展示は絶対に見逃さない方がいい。

渋谷慶一郎 (音楽家)

そこに永遠に座っていたかった。

杉田協士 (映画監督)

ゴダール最後の長篇『イメージの本』が空間に放たれ、映画・絵画・書物の断片が交錯する映像インスタレーションとして立ち上がる。迷宮のような展示空間を歩くその体験は、彼の思考の森を彷徨う、またとない時間になるだろう。

堀 潤之 (映画研究者)

一昨年にリスボンで、ジャン＝リュック・ゴダールが遺した映像音響素材を、ファブリス・アラニーヨが構成する本展示を見る機会を得た。

幾重にも重なる映像のただなか、音声は複数の空間を浸透させ合う。それはSon-Image (音-映像)の海に潜るような体験だった。

これがゴダールの頭の中？ それは誰にもわからない。ただ、今も時折そのダイバーズ・ハイのような感覚を反芻している。

またあそこに行きたい。

濱口竜介 (映画監督)

## ジャン＝リュック・ゴダール《感情、表徴、情念 ゴダールの『イメージの本』について》展 Sentiments Signes Passions, à propos du Livre d'image, J.L. Godard

会期 | 2025年7月4日(金)～8月31日(日)

会場 | 王城ビル (新宿区歌舞伎町1-13-2)

主催 | 《感情、表徴、情念 ゴダールの『イメージの本』について》展 実行委員会

チケット料金 | 一般2,200円(税込) \*各種割引あり

企画 | カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、パラダイス商事株式会社

後援 | 在日スイス大使館、在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ、新宿区

アーティスト / キュレーター | ファブリス・アラニーヨ (Fabrice Aragny)

アシスタント & コキュレーター | 梶館南菜子

キービジュアルデザイン | 北山雅和

